

D's Pickに 農機具を積み込んで



-Before-

耕せば家庭菜園用地としても活用できる土地だけど、使われていない現状は雑草が伸び放題。普段使い慣れない草刈り機と耕うん機の使い方についてレクチャーを受けて、早速草刈りから作業開始。手作業じゃないけど、なかなかの重労働。果たして綺麗に仕上がるか？

畑でRCカー

グランプリ!?



ただRCで遊ぶだけじゃ面白くないからさ、コースを作るところから始めてみたらオモシロいんじゃない？ D's Pickだから、耕うん機だって運べるし。そんな思い付きから今回の畑でRC遊びは実行された。そもそも“遊びグルマ”をコンセプトに軽トラのカスタム車両として制作したD's Pick。遊びグルマとしての一番のメリットはやはり荷物がたくさん積めること。積みきれないからと荷物を選ぶ必要もなく、車内に載せるには躊躇する汚れ物だって気にしない。思いつく道具を持っていけるから、出掛けた先での遊びを制限しないことがD's Pickが遊びグルマたる所以なので。というわけで今回はRCと農業のコラボレーション。D's Pickの企画当初から遊びのひとつとして想定されていた

RC。庭や公園などスペースや周囲の人に制限されずに思いっきり遊ぶには専用コースが一番。でも、身近にそんなコースがないものだから自分たちで作ってしまえ、という発想。その土地を開墾するために用意した、草刈り機と耕うん機。実はD's Pick完成以降、家庭菜園を楽しんでいる方からの問い合わせが多く、話を聞いてる中で、農作物を育てる前段階の土地を耕す過程に興味が沸いていた。そんな気持ちで遊びとして捉えていた開墾作業。でも、実際にやってみたら大変。記録的な猛暑に見舞われた炎天下の下で、草刈り機も耕うん機も使いこなすのは重労働。汗と土にまみれたオジサンたちは経口補水液をウマイウマイと飲み干すのでした。

デイトナプロデュースの
カスタム軽トラD's Pickで向かった先は
東京都近郊の休耕地。
そこで雑草伸び放題の土地を切り開き、
コースを作ってRCを走らせようという計画。
耕うん機を運び、時に休憩スペース、
時に操縦台とD's Pickは獅子奮迅の働きを
見せるのだった。

Photo/Kenji KONDO Text/Daytona
Call/T-STYLE Auto Sales 045-342-7757 www.t-style08.com
Special Thanks/ディーアンドディー www.dd-asia.jp





開墾作業時は休憩スペースとして活用していた荷台。RC遊びが始まれば、今度は操縦台として使ってみる。偉そうに言っているが荷台の上には立っているだけ。でも、あえて刈り残した雑草の奥を周回するコースレイアウト上、奥まで見渡せる目線の高い操縦台はありがたかった。

猛暑の開墾GPは熱中症に気をつけろ!!



軽トラとしての機能を最大限に生かした遊び方として、D's Pickのプロジェクトメンバー内でも議論しているのが、荷台の活用法。荷物を積むのは当たり前として出掛けた先でどんな風に有効活用ができるのか？今回のRC遊びでも、その辺を実践してみようということで休憩スペースとして活用してみること。といってもテントで覆った荷台の上でくつろぐだけ。地面に荷物を広げるよりも汚れない、ただそれだけのことだけれどこれがなかなか便利。土と草にまみれたなかで、腰を下ろせるエスケープゾーンはありがたく、レジャーシートを広げるよりも簡単で、地面に直接敷くよりも効果的。

今回の経験を応用すれば、キャンプに出掛けた時には、荷台の上に寝床を確保するっていうのもアリ。荷台長約200cm、幅約130cmのスペースならば大人2名ぐらゐは余裕で眠れるはず。川原のような岩でゴツゴツした場所でもゆっくり眠れるはず。荷物を置くだけじゃなく、人が寛ぐスペースに。荷台の活用法はまだまだありそう。



ハイパーデザイナーやまさきたかゆき（手前）、T-STYLE長谷川友紀（奥）。D's Pickプロジェクトメンバーの2人は、見た目は若いがいじけたオジサン。そして遊びに本気になっちゃアソビ人。でも、炎天下での農作業はさすがに堪えた様子。

小さな軽トラの大きな荷台を上手に使いこなせ！



荒れ地のコースで猛烈ウィリー!!

-After-

全面の草を刈らずに、中心地をあえて残したフィールド・オブ・ドリームス風。草を刈っただけの不整地コース中に一部を障害物的に掘り起こし、勢いだけでは乗り越えられない“フカフカ”エリアを設置。適度な障害エリアになるはずなのに、アイツときたら、簡単に……。



(写真奥から) 1/24RC ヘビーダンプ 1万6800円、1/10RC タンピングブル 1万4800円、1/18RC コングヘッド×6 1万9800円
問/タミヤ 054-283-0003
www.tamiya.com



荒地をモノともせず走り回るタミヤのビッグタイヤRC。なかでも最新モデルの“アイツ”、6輪駆動のコングヘッドの走破性はケタ違い。手加減せずにもっと掘り起こせばよかったと悔やむ。

